

心育む「木育」

五感がよるこぶ木の時間

道具の背景にある 本当の魅力

「昔は暮らしの中に木の道具が当たり前にありました。どの山の何の木を使ったのか、誰がどうやって作ったのか、人々は自然と知っていました」と話すのは「特定非営利活動法人 岐阜県木育推進協議会」の事務局長、浅野美香子さん。木の道具ひとつひとつに、その昔の人は気密性の高い木、肌触りのいい木、水に強い木など樹種の特性を熟知し、用途によって使い分けていた。今は便利な世の中になった一方、木の知恵や技術は子どもだけでなく大人からも失われつつある。その豊かさを学び直し、木の文化を再構築することが必要だ。



身近に木が少ない環境でも、家庭でできる木育はあります。たとえば街路樹の観察はいい教材です。市や府の木にはそのまちの歴史や文化が隠れているかもしれません。今は親世代でも木の体験の少ない人が多いので、一緒に調べてみると親子の交流になります。



特定非営利活動法人
岐阜県木育推進協議会
事務局長 浅野美香子さん

やさしい木目と香りに、不思議と心がなごむ木の素材。

『株式会社中島工務店』が建築を手がけた『彩都やまもり』には、木と人のつながりを見つめ直すヒントがあった。

触れれば伝わる、 豊かな木の文化

木育という言葉をご存知だろうか。木の道具や建築を通じて木の文化に触れ、森林と人との関わりを学ぶ環境教育だ。2004年に北海道で提唱されて以来、徐々に全国へと広がってきた。ここ箕面にもくつろいだ雰囲気の中、木育に親しめる場所がある。

大阪モノレール「彩都西駅」近くの「彩都やまもり」。「関西岐阜県人連合会」(以下、同会)が運営する岐阜県の魅力の発信拠点だ。ヒノキを使った2棟の木造建築があり、「加子母子屋」は自由に見学できるモデルハウス。もうひとつのカフェ兼ギャラリー「彩輝館」では岐阜県ゆかりのメニューを提供するほか、名産品や文化を紹介するイベントを開催している。木育活動もその一環だ。

「比べてみてください」。訪れた「加子母子屋」で手渡されたのはヒノキとナラ、2種類の木片だった。手に乗せるとナラはひんやり冷たく、手応えは固い。ヒノキはあたたかく、親指馴染むような感触だ。促されて親指の爪を押し付けるとほんのり跡が残った。「ヒノキは柔らかくあたたかい。だから家にもおもちゃにもぴったりなんです」。そう話すのは同会の事務局長を務める鷺見昌己さんだ。「株式会社中島工務店」(以下、同社)の取締役



でもある。同社は岐阜県に本社があり、飛騨の職人技を活かした木の住宅や社寺建築を手がけている。「彩都やまもり」もそのひとつだ。

岐阜県は敷地面積に対する森林率が約8割を占める。木の国。木と人との結びつきは強く、林業と木工の文化が栄えた。特に寒冷な気候で時間をかけて成長する「東濃ひのき」は優れた木材として日用品や子どものおもちゃ、時には寺社や城の建築材など、あらゆる物に形を変えて人々の暮らしを支えてきた。

しかし現代、岐阜県のみならず日本には戦後に植林された豊かな森林があるのに、活用が不十分だ。他の素材や輸入木材に押されてコストバランスが崩れ、手入れが行き届かなくなっている森林が増えた。そこでもう一度木の魅力を伝え、少しでも国産木材の活用につなげようというのが木育のねらいだ。「まずはこの場所で木に触れてもらって、木や自然を見つめ直すきっかけになれば」と鷺見さん。



▲木材となる「東濃ひのき」が育つ森を訪れて、伐採から製材まで一連の作業を見学する「水と緑の勉強会」。木の家を建てる人に向けて「中島工務店」が開催している。これもまた木育だ



▲住まいづくりを終えた記念に行う「ふるさとまつり」の植樹の取り組み。伐採と植樹によって木は世代交代し、山が若返る。木材として使えるのは60年後、孫の世代だ

に、子どもたちは夢中になるといいます。同会の鳴海剛史さんは「子どもたちには、成長とともに木との関わり方を深めてほしい」と話してくれた。たとえば小学生なら木工で創造力を養い、中学生は林業の仕組みを知る。文化、環境、経済など、人間のあらゆる営みにつながっている木は、教材にうってつけだ。「山は昔も今もそこにあって、人の手入れを必要としています。そのことを考えられる人になってくれれば」。

ゆつくりと、 この場所を育てる



ヒノキを植えてから出荷できるようになるまで約60年。1軒の家を建てるにはおよそ100本の木が必要だという。前の世代が植えた木を私たちが使い、使った分を植えて次世代に託すことで、はじめて持続可能な山のサ

イクルが完成する。「ただ単に木の道具や家を選ぶ人が増えるだけでは意味がない」と鷺見さんは言う。背景にあるものを伝え、訪れた人々に価値観を共有してもらおうというのがこの場所の使命、つまりは木育だ。「最初は、なんとなく落ち着くから行ってみよう」といって、100人、200人の中から、深く木を理解する人が1人2人現れてくることがある。「彩都やまもり」は、木や自然が好きながどんどん集まる場所に育つはず。20年後くらいかな。木の時間を知る人は、遠くはるかな風景を見渡している。



彩都やまもりの方々にインタビュー

木を育て出荷する地方と、大消費地となる都市部。交流が少なく互いの姿が見えにくくなっていきます。本当はどちらか片方だけでは生きていけない。交流し、知恵を伝え合う機会が必要だと思えます。



関西岐阜県人連合会
事務局長 鷺見昌己さん
(株式会社 中島工務店 取締役)

最近は岐阜県へ旅行する方が情報収集に立ち寄ってくださることも増えました。これからのワークショップでは地元の木好きの方を講師に招くなどして、箕面の方とつながっていききたいです。



関西岐阜県人連合会
吉田希世子さん
(株式会社 中島工務店 大阪支店)

日本では昔から木の家や道具を使ってきました。私たちが気候にあった良いものだと信じて活動しています。訪れる人みんなのスペースとして、山のことや木のこと、岐阜のことをもっと知ってもらえたら



関西岐阜県人連合会
鳴海剛史さん
(株式会社 中島工務店 大阪支店 支店長)

右ページ上の写真

「東濃ひのきで作る「からくりトレイン」ワークショップ」

日時: 11月18日(日) I部 13:00~14:30 II部 14:30~16:00
場所: 彩輝館(「彩都やまもり」内) ※各回先着10名
参加費: 1セット500円
講師: 特定非営利活動法人 岐阜県木育推進協議会
※参加申し込み・問い合わせは下記電話番号まで

彩都やまもり(清流の国ぎふ 移住・交流センター)
住所: 箕面市彩都粟生南1-17-26
営業: 9:00~17:00
TEL: 072-739-6046
URL: http://yamamori.site

※本イベントは岐阜県の委託を受けて「関西岐阜県人連合会」が企画・運営